

# 委員会調査(研修)報告書

NO.

平成 29 年 11 月 24 日

胎内市議会議長

森田幸衛様

(報告者) まちづくり常任委員会

委員長 丸山孝博

まちづくり常任委員会閉会中所管事務調査 について、  
議会会議規則第 110 条により、下記のとおり報告します。

調査・研修 日時	自 平成 29 年 11 月 20 日 至 平成 29 年 11 月 20 日 泊 日 ( 1 日間)	調査・研修 場 所	胎内市平根台 2416 学校法人新潟総合学園 新潟食料農業大学 胎内キャンパス
調査・研修 事 項	学校施設の見学と学校運営等についての懇談		
調査・研修 出席者(参加者)	丸山孝博、渡辺秀敏、桐生清太郎、森田幸衛、薄田智 佐藤武志、天木義人、坂上清一、森本将司、高橋政実(副議長) 委員 9 人全員と副議長 総合政策課長・係長 事務局 2 人		
相手方(対応者)	NSG グループ学校法人新潟総合学園 新潟食料農業大学設置準備室 矢田広視 設置準備室長、種畑賢二 課長、小船井克洋 次長		

## 調査の結果または概要

NSGグループである学校法人新潟総合学園が、新潟市北区と胎内市平根台に来春開校予定の新潟食料農業大学は、県内では18番目の大学で、胎内市内では初めての大学であり今回、胎内キャンパスを視察、関係者と懇談した。

施設は、旧アデランスの土地及び社屋を取得し再利用した管理棟・研究棟・実験棟・講義棟・厚生棟などと、来春の開校に伴って設置した図書館、グラウンドなどが整備されていた。

8月に文科省から設置認可され、食料産業学部1学部1学科180人の定員である。教授は34名を予定している。この大学では「食」と「農」と「ビジネス」を一体的に学ぶことが特徴となっている。1、2年生は、週4回胎内キャンパス、週1回新潟キャンパスで学び、3、4年生は、ビジネスコースは、新潟キャンパス。アグリ、フードコースはすべて胎内キャンパスになるとのこと。生徒募集状況については、資料請求で県内4割、県外6割で男女比は、ほぼ同数で、学生の居住地としては180人中、約100人を一人暮らしとして想定、極力地元に住居するようにしており、つつじが丘にアパートを確保、他にも指定の提携会社と連携している。また、胎内市民の雇用の確保については、食堂、バスの運転士などを考えているとのこと。さらに市内の農家や農地との関わりについては、地元農家との体験、イベント、祭りや中条三八市への参加など積極的に交流するとのことであった。

## 調査の所見・感想

今回の施設の見学と学校側との懇談で、委員会として、もう一つの目的であった学校に対する認識の共有ができた。

来春の開学に向けて準備が行われていたが、NSGグループという学校経営・運営のノウハウを持ち備えているだけに今後、当市の基幹産業である農業と地域の活性化とあわせ、期待し地元の大学として見守っていきたい。